

評価委員：岩田博 委員長、高橋 道儀 副委員長、平賀 孝男委員、喜多 隆正委員
郷 金二郎委員、宮崎 弘次委員、田中 政義委員、倉谷 通孝委員、
松尾 利彦委員 福留 正也委員 報告書作成者：井上 真紀子委員

評価時期 平成31年2月

1 重点目標の評価

重点目標1

(生徒一人一人を大切にした学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。)

- ・多くの生徒が、落ち着いた学校生活を送っているように見受けられた。授業規律については、生徒の意識が高く、日頃から学校の指導の成果が表れている。
- ・サプリーノートの活用については、肯定的評価の割合が他の項目と比べて低い。家庭と連携するのに良いので頑張ってもらいたい。
- ・授業内容の質に関する部分では、教員・生徒は75%を超える肯定的評価があったが、保護者は60%と低い数値となった。「わからない」と回答する保護者が多いのも一因であるが、教員が授業の改善に努めていく必要性もある。

重点目標2

(暴力やいじめがなく、生徒同士、生徒と教師が、規律をもって豊かに関わり合う。)

- ・深刻ないじめ問題は起きていないとの報告があった。ただし、「先生はいじめ・不登校問題行動等の未然防止や早期発見をしていますか」との質問に生徒、保護者とも、教員に比べて肯定的評価が低い。このことは課題であり改善が求められる。
- ・生徒は学校行事に積極的に取り組んでいるおり、行事における充実感や達成感や深め、学校生活を過ごしている様子が、アンケート調査からも伺われる。
- ・運動会、学習発表会など全生徒が積極的に活動しているのがよくわかる。先生の指導がよく伝わっている。

重点目標3

(日々の学校生活を健康・安全に過ごすとともに、将来展望性をもたせる活動を充実させる。)

- ・オリンピック・パラリンピック教育に関する質問に対する保護者の「わからない」との回答が非常に多かった。2020年に向けて取組内容の周知について検討して欲しい。
- ・進路を主体的に考える学年での取組に、多くの生徒が肯定的に捉えている。これからの予測困難な時代を迎え、時代や環境の変化等に応じたキャリア教育の内容を、より一層工夫改善していくことが求められている。

2 今後の改善に向けた意見

- ・学力向上に関しては、保護者の関心が高いのは分かる。日本橋中はどの授業も生徒が一生懸命行っている。学習発表会の作品も素晴らしいものが多い。
- ・生徒の学校評価を終え、その結果を保護者に伝えた後に保護者アンケートを実施したのは成果が上がり回収率が85%以上になるのは理解できる。一方で、「わからない」と回答した保護者の割合が多いのが気になる。学校の様子を見てもらうための工夫が必要である。
- ・ICT教育は遅れていると聞いている。区の方角性を知りたい。また、道徳の教科化、特別支援教育はこれからどのように変わっていくのか様子を見ていきたい。

3 その他の意見

- ・アンケートに子供たちの考えが素直に出ている。
- ・体力が低いのは、小学校から続いていると感じる。最近は危ないからとの理由で公園等の遊具が撤去されることも多いが、遊びの中で危険を察知しながら考えて動くことも必要だと感じる。何でも危ないというのは、逆に子供の運動能力を低下させているのではないかと。